

本時のねらい

- ・自分の決めたテーマから連想した言葉をもとに、詩を作ることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・学習支援ソフト（ロイロノート）のシンキングツール（くま手チャート）を使うことで、題材から連想できることを数多く考え、それらを整理しながら詩を作る。
- ・くま手チャートに連想したことの手順を入れかえることで、詩に入れたい言葉に優先順位をつけながら詩を考える。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromebook
- ・授業支援ソフト（ロイロノート）
- ・大型モニター

本時の展開

| 学習の流れ | 主な学習活動と内容 | ICT 活用のポイント・工夫 |
|--------------|--|---|
| 導入 (15 分) | <ul style="list-style-type: none"> ○前時に考えた、自分が気に入った詩とその理由を発表する。 ○本時の課題を把握する。 「気持ちや様子を詩に表現しよう」 | <ul style="list-style-type: none"> ・気に入った詩を大型モニターで映して全員に共有する。 ・見本として、蛇から連想するものを教員用端末でロイロノートのシンキングツール（くま手チャート）に書きこみ、本時の課題の取り組み方について見通しを持たせる。 |
| 展開 (25 分) | <ul style="list-style-type: none"> ○くま手チャートを使用して、自分が決めたテーマから連想できることを書き、詩に入れたい言葉を順に並べてかえて整理をする。 ①ロイロノートのくま手チャートを使って、テーマから連想できることをテキストで記入していく。 ②詩に入れたい言葉の優先順位を考えて順番を入れかえる。 ○くま手チャートで整理したことをもとに、ノートに詩を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・くま手チャートに予め教員が観点を記入したものを用意しておき、児童に送る。 ・記入したテキストのカードと観点を書いたカードをつなげて一緒に移動するよう伝える。 |
| まとめ (5 分) | <ul style="list-style-type: none"> ○完成した詩を提出箱に提出し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・完成した詩が書かれたノートをカメラで撮影し、ロイロノートの提出箱に提出させる。 ・教員用端末で発表者の詩を大型モニターに投影する。 |

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：自分の決めたテーマからくま手チャートを使って連想している場面

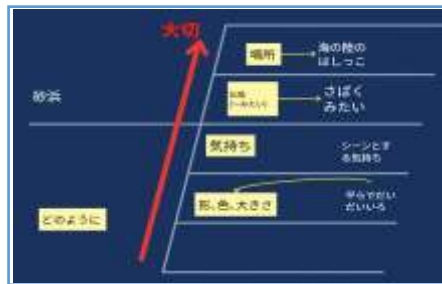


写真 2：実際に児童が使用したくま手チャート



写真 3：くま手チャートに書いたものをもとに、ノートに詩をつくっている場面

児童生徒の反応や変容

- ・「詩を考える」という今日のめあてを聞いた時は不安そうにしていた児童も、ロイロノートのシンキングツール（くま手チャート）を使うことによって、スムーズに詩をつくることができ、授業の後半には喜んでくみらされた。
- ・シンキングツール（くま手チャート）と観点を用意したことで、様々な角度からテーマについて考えることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

シンキングツール（くま手チャート）を活用して詩を考えることがうまくいかどうか不安もあったが、シンキングツール（くま手チャート）を使用することで、児童が頭の中を整理でき、楽しみながら詩を書くことができたと感じる。ロイロノートを使用することで、すぐに詩を書き始めるのではなく、「テーマから連想できることを書き出す」→「大切にしたい言葉の優先順位を並べかえる」→「詩を考える」というスモールステップで取り組むことができた。